

ロックフェスとスポーツイベントに対する社会的位置づけに対する研究

1220575 山口健太

指導教員 坂本 泰祥

研究背景

例えば、2021年7月2日茨城県医師会が『ROCK IN JAPANFESTIVAL 2021』に中止を要請した。しかしながら、J1のサッカーの試合や東京オリンピックについては中止を要請しなかった。このことにより、「なぜスポーツイベントは良くてロックフェスはダメなのか？」という論争がネット上などで起きている。

研究目的

そこで本研究は、上述の社会現象の背景が何であるかをロックフェスとスポーツイベントの歴史的考察やアンケートを踏まえながら明らかにしていくことを目的とする。

調査・分析方法

本研究では文献調査とアンケート調査を行う。文研研究ではロックフェスと比較対象としてNPB (Nippon Professional Baseball Organization) の成り立ちや歴史を分析する。その分析に基づき、上述の社会現象に対する仮説を立案する。その仮説に対してアンケート調査を行い、検証を行う。

分析結果

歴史的考察の結果、初期のロックフェスは反戦などを主張したり政治色が強いものが多く、カウンターカルチャー的なものが多い事に加え、ドラッグが横行するなどイメージが悪かった。またマスメディアとの関係性も野球などに比べてとても低かった。アンケート調査の結果、「コロナ禍にロックフェスの開催は反対でスポーツは賛成の層は多く、その原因の一端がマスメディアの報道の影響である」という仮説が得られた。

考察・結論

マスメディアの報道の影響を受けて実際にロックフェスのマイナスのイメージが形成されていた。また、ロックフェスは感染対策やクラスターが起きていない事実をSNSなどを使って発信しているが一般層にその内容が届いておらず、また現在のようなロックフェスはまだ歴史が浅いため今後とも継続的に行っていくことが大切である。

以上のような本研究により次の成果が挙げられたと考えられる。

- ・本研究ではアンケート調査と歴史的な考察からロックフェスはイメージが悪く原因の一端はマスメディアとの関係性の薄さが原因であることを明らかにした。